

2024年8月実績概要（メモ）

（2024. 9. 19）

定修時期のピークを過ぎつつも、誘導品の生産は増減のまだら模様が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 404, 500トン

前月比

+ 1. 6 % (+ 6,300トン)

前年同月比

▲ 13. 5 % (▲ 63,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	—	—
定修要因等	+ 2. 6 %	▲ 16. 0 %
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 1. 0 %	+ 2. 5 %
生産増減率	+ 1. 6 %	▲ 13. 5 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 82. 9 %* → 当月 82. 3 % ← 前年同月 80. 3 %

定修プラント：前月 1社1プラント → 当月 1社1プラント ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、主に定修規模差から HDPE、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、BR、ベンゼンなどの13品目がプラス。LDPE、EG、SBRなどの4品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、HDPE、PP、SM、EG、AN、SBR、ベンゼン、キシレンなどの10品目がマイナス。PS、MMAモノマー、BRなどの7品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、定修規模の縮小に伴い HDPE、PP、PS はプラス、LDPE は稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から LDPE、PS はプラス、HDPE、PP はマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドとしては、前月と同様に足踏みの状況が続いている。一方、国内の生産活動は、8月は生産機械、電子部品関連で増加予測がだされているほか、生産マインドのトレンドも引き続き上方修正の見方が多くなっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、8月は夏季休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少もあり LDPE、HDPE、PP、PS の4樹脂ともに大幅なマイナスとなった。前年比は、HDPE のみは微減に留まったが、LDPE、PP、PS は二桁台のマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、フィルム等の包材分野の出荷は、前月の7月にポリオレフィン3樹脂は揃って前年比プラスとなったが、当月はPPのみのプラスに留まった。包材以外の分野では、HDPEの射出成形分野のほか、パイプ分野、PSは、電機・工業用がプラスとなったが、その他の出荷分野は各樹脂ともほとんどが前年を下回ることとなった。

ハ) 輸出

原油、ナフサ価格の下落からの先安感もあり、引き合いは鈍く、前月比は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナス。前年比も LDPE、HDPE、PP でマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PS で増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PP、PS は上昇、HDPE は前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS とも高めの水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LDPE	+ 15, 900	3. 3	3. 6
HDPE	+ 2, 600	3. 3	3. 3
P P	+ 11, 100	3. 0	3. 2
P S	+ 17, 800	1. 9	2. 3

前月からの修正を*で付記

以上